

高速無線通信網（Wi-Fi 6）を整備します

令和4年4月
供用開始予定

デジタル化が進む社会では、高速大容量の情報通信環境が必要不可欠です。市では、令和3年度に市内全域をカバー（人口カバー率ほぼ100%）する高速無線通信網（Wi-Fi 6）を整備し、市内の情報通信基盤の強化や情報格差の解消を目指します。なお、利用方法や加入方法については、詳細が決まり次第お知らせします。

こんなことにつながります！

- 小中学生における家庭でのオンライン教育や教育分野でのICT化
- 企業誘致や市内企業のDX推進
- 移住定住の促進、防災や防犯、見守りの強化 など



DX人材育成を進めます

IT知識や活用ノウハウの習得を促し、行政のデジタル化の推進やIT技術を活用して地域課題を解決するため、市職員に向けたDX人材育成研修を実施します。また、市商工会など関係機関と連携してDX推進協議会を設立するなどし、市内でのDX推進の機運醸成やDX人材の育成を進めます。

マイナンバーカードの取得を促進します



マイナンバーカードは、個人の身分証明書であり、オンラインでの行政手続の際にも確実な本人確認の手段となり、デジタル社会の「パスポート」といえます。このため、必要な行政サービスをオンライン上で「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」受けることができる社会を実現するため、マイナンバーカードの利便性を向上させながら、取得促進を図ります（令和3年7月18日時点の交付率：38.39% 令和3年度末目標交付率：60%）。

例えばDX推進で、あわら市にはこんな未来が待っています

1 スマート教育 エデュケーション

- ・パーソナライズされた最適な学習環境の提供
- ・世界に通用するグローバルな人材の育成

2 スーパー健康 ウェルネスシティ

- ・健康状態や社会参加状況などをウェアラブル端末で管理(健康の見える化)
- ・疾病予防や早期診断の実現により健康寿命の延伸

3 未来型の農業 農作物栽培

- ・AIによるモニタリングやIoTによる省力化・効率化
- ・除草・収穫ロボットの導入

4 Maas 観光 温泉の魅力化

- ・より価値の高い旅の提供
- ・一人一人に合わせたきめ細やかなサービスの提供
- ・既存の観光資源に新たな魅力を生み出す

5 先進的災害予知・防災 防災システム

- ・大雨などの気象災害の予測
- ・安否情報の一元管理
- ・VR(仮想現実)を利用した避難訓練

6 地域物流 プラットフォーム

- ・コールセンターを設置し、高齢者とサービス事業者をマッチングすることで、高齢者の買い物など日常生活の困りごとを解決

7 高速無線通信網 (Wi-Fi 6) の整備

データ収集・利活用
データ連携基盤

ICT…情報通信技術
AI…人工知能
IoT…モノのインターネット

あわら市

DX

～デジタルの力で、より幸せなまちづくり～

推進基本計画

デジタルトランスフォーメーション

■ 問合せ 政策広報課DX推進室 ☎73-8005

急速に進行する少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの衰退をはじめ、産業界における将来を見据えたサービスの強化や健康寿命の延伸、自然災害の大規模化・激甚化、SDGs（持続可能な開発目標）達成のためのまちづくりなど、本市はさまざまな課題を抱えています。これらの課題を解決するには、これまでの手法や人手では限界となってきました。

今後は、デジタル技術や情報通信技術（ICT、AI、IoTなど）を活用し、分野横断的に、地域が抱える課題を効率よく解決していく必要があります。

また「人口減少に負けないまち」、「子どもや若者にも共感される魅力あるまち」を目指し、デジタルにネガティブな世代にも受け入れられ、若い世代が「ふるさとあわら」を受け継ぎ、地域活力を高めるために、未来を先取りする取り組みを市民の皆さんとともに進めてまいります。

このため、デジタル技術や情報通信機器を活用し、市内におけるDXを推進するために「あわら市DX推進基本計画」を令和3年6月に策定しました。

DX推進基本計画の目的

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、デジタル技術を活用することにより、人々の生活をより良いものへと変革することです。

あわら市では、DXを積極的に推進し、先端技術を活用することで、地域課題を解決するとともに、新たな価値創造につなげ、地域住民が安心してワクワクしながら生活できる、利便性の高い住みやすいまちづくりを進めます。

DX推進基本計画における重要な視点

① 全体最適を目指す

取り組みは、個別分野にとどまらず、生活全般にまたがるようなまちづくり全体のビジョンを持つ。

② 長期ビジョンで実施する

最先端技術の導入などを一時的に行うのではなく、よりよい未来社会実現のため、検証や導入、実証、分析を繰り返し行う。

③ 住民目線で取り組む

技術開発側、供給側の目線ではなく「住民目線」でよりよい未来社会を追求する。